

ジュゴン Vol.78

ちゃんぷるニュース

SDCC 2015. 1. 27
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS



- 2/3 新基地ノーの民意が三度
- ジュゴン訴訟
- 4/5 辺野古現地レポート
- ロックアクションに参加しました
- 6/7 京都交流パーティー
- わんさか通信★ジュゴンのわ
- ジュゴンスタディツアー報告

2015年。新春のお喜びを申し上げます。昨年の沖縄県知事選、衆議院選挙における、辺野古新基地建設に反対するオール沖縄側大勝利は、安倍独裁政権打倒を目指す本土の人々にも、大きな希望と勇気を与えたことと思います。大本営主導のイデオロギー対立のゲームに乗せられることを止め、平和と安全な未来をめざすアイデンティティーでまとまれば、危険な政治の流れを止めることが出来る。そのことをSDCCの皆さんのご支援ご協力の下で示し得たことは、大いなる喜びでありました。

ともあれ今年が闘いの正念場。年明けから辺野古を回る攻防は激しさを増しています。

案の定防衛省は辺野古新基地予算を倍にして本格工事に着手し始めました。キャンプシュワブゲート前や海上で阻止行動する仲間達が非暴力の闘いに徹して頑張っておりますが、機動隊による強制排除で怪我人が出ないことを祈るばかりです。

いい正月で一びる

辺野古と高江に新しい基地を造らせてはならない。造らせてしまうと山原の世界自然遺産登録の夢が消えてしまいます。そして立ち所に精神環境は破壊され、軍事大国化への歯止めを失い、憲法を改悪され、内実国民に主権のない国、天皇を国家元首にした戦前の国家体制護持思想で統治する国に変えられてしまうことは間違いありません。すでに国民の声を無視し、聞く耳を持たない安倍首相の独裁ぶりを見れば、そのことがよく分かります。言わば彼は国を乗っ取る策士です。明治維新を画策した長州の血脈がそうさせているのでしょうか。彼は自らの正当化と天皇の正当化を示すための論拠に、記紀神話を語り、伊勢神宮を語りますが、逆に言えば彼の論拠を崩すことが、我々に残された最後の手段ということになります。

つまり辺野古の闘いとは、ジュゴンと天皇の歴史を潰し国体護持に突っ走る安倍政権と、ジュゴンと天皇制との関わりを守る為に必死に辺野古新基地建設阻止に立ちあがる人々との闘いになるべきだということです。海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC共同代表）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



フィリピンのジュゴントレンチ（7面）



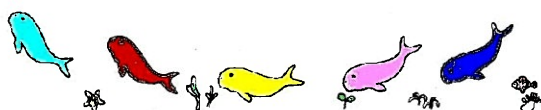
わんさか大浦パークでの販売が決まった SDCC のじゅごんグッズ（6面）

情勢

「新基地 NO ! の民意が三度」



12月15日衆議院選挙翌日の本土各紙の見出しは「自公大勝」、「与党、三分の二維持」でした。それにひきかえ、沖縄二紙は「辺野古反対の民意再び沖縄選挙区で全勝」との見出しが躍りました。沖縄1区では共産前職の赤嶺政賢氏(前回は比例区)、2区は社民前職の照屋寛徳氏、3区は生活前職の玉木デニー氏、4区は無所属新人の仲里利信氏が当選しました。当選した4氏は16日、キャンプシュワブ・ゲート前のテントにそろって参加し、今後の決意を述べました。本土と沖縄での選挙戦の大きな違いは、争点(辺野古新基地の建設反対)が明確で、自公に代わる民意の受け皿として沖縄県知事選挙を戦った「ひやみかち・うまんちゅの会」があったところです。「ひやみかち・うまんちゅの会」の金秀グループ(土建、スーパーなど)や、かりゆしグループ(ホテル関係)、自民主党を除名された那覇市議団新風会などが党派を超えて、沖縄1区の赤嶺政賢さん(共産党)を応援したことに「オール沖縄」の姿勢が表れています。



九州沖縄比例区で復活した自民党4議員とそうぞう1議員を含めて、沖縄から9議員が国会に出ることになり、翁長知事は「大きな輪を拡大する素地ができた」と述べています。辺野古新基地建設反対、普天間即時閉鎖・撤去、オスプレイ反対の建白書運動を拡大することで、「オール沖縄を取り戻す」との決意を明らかにしました。翁長知事は県議会初答弁でも、「辺野古に基地はつくらせないことを県政の柱にする」「承認の取り消し、撤回も視野に専門家チームを設置して承認の経緯を検証する」と断言しました。沖縄県議会は翁長知事が推薦した副知事2名を自民党以外の賛成多数で選任しました。しかし、政府自民党は「移設計画を淡々と進める」(菅官房長官)と沖縄県民の意思を無視し、埋め立て工事の強行を狙っています。翁長県政を支え、辺野古テント村の闘いに連帯して、本土で埋め立て反対の輪を広げることが重要です。

12月12日サンフランシスコでジュゴン訴訟の口頭弁論が開かれました(詳細は3面)。私たちは埋め立て反対署名を継続し、2月には沖縄県交渉、沖縄防衛局交渉を取り組みます。

<翁長新知事を支える政府交渉>



11月28日に防衛、環境、外務省交渉を取り組み、署名11,355筆(累計87,716筆)を提出しました。今回の目的は、翁長新知事を支え、12月ジュゴン訴訟口頭弁論を前に、各省庁から埋め立て反対の闘いに有利な言質をとるためのものでした。

沖縄県が埋め立て承認の際に付けた「留意事項」にある環境監視等委員会の開催と沖縄県との協議について防衛省を追及しました。環境監視等委員会は専門家・有識者で構成され、ジュゴンなどの保護対策の実施を検討するためのものです。しかし、6月に開催された第2回委員会議論が5か月経た今も公開されていません。出席委員と事務局(防衛省)との間で議論の

内容が整理できていないから(?)とのこと。先行埋め立ての「中仕切り護岸工事」の業者契約はすでに終わっています。しかし、第3回環境監視委員会の開催は未定です。ただちに第2回委員会の議事録公開と、工事着手までに第3回委員会を開くことを防衛省に約束させました。ジュゴン訴訟について日米間で情報交換していることは認めましたが、米国の国家歴史保存法で決められたジュゴンの歴史的文化的意義について関係者・団体にヒヤリングすることについては口を閉ざして答えませんでした。

(事務局 蛭川義章)

ジュゴン訴訟：公開審理を傍聴して

2014年12月12日、米国サンフランシスコの連邦地裁において、ジュゴン訴訟の公開審理がありました。国防総省による「ジュゴンへの影響の検証を終えた」との昨年4月の報告を受け新たな展開の最終段階となるものです。

原告側は裁判所に対して、影響の検証を国防総省にやり直しさせるように、また国防総省は原告の申し立てを却下するように求めています。新たにジュゴン訴訟を担当したエドワード・チェン裁判長は、国防総省の主張する political question doctrine 「政治的問題の法理」（米国憲法上、外交問題には司法は関われない）について「外交問題に触れることなく検証のやり直しが可能なのか」「そもそも裁判所が関わるのか」と原告側弁護士に終始問いかけました。

原告側の弁護士は、これは法理の問題ではなく、検証の手続きの不備が問われるべきだと判例を持って主張。一方国防総省の弁護士は、「検証のやり直し」は勿論、裁判所が検証について判断をすること自体が政治的問題の法理に触れると反論しま

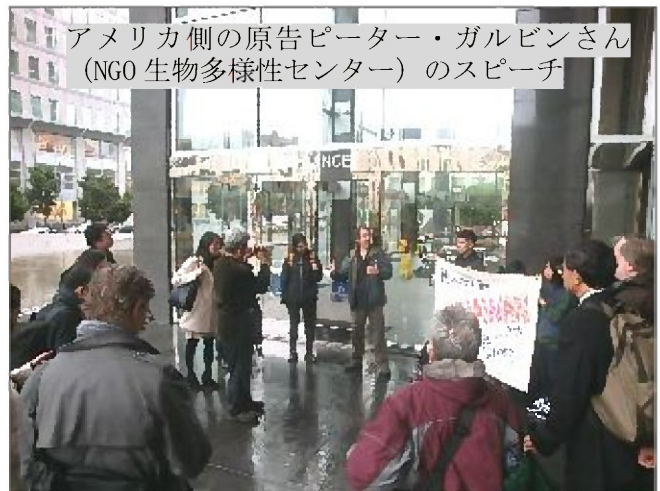
した。傍聴席からは、裁判長が国防総省の主張の正当性を確認しようとしているのか、それともジュゴンへの影響についての再検証の可能性を模索しようとしているのか判断するのは難しい、という感想が聞かれました。

原告側の弁護士によれば、裁判長の判断は早い時期にでるであろうということです。原告の主張が認められれば、国防総省による再検証について審理が行われていきます。国防総省の主張が認められれば、控訴を含めた新たな対応が行われます。ジュゴン訴訟へのみなさんの注目をお願いします。

追記：5年ぶりの大嵐で11日の公開審理が延期になりましたが、ジュゴン研究の第一人者エレン・ハインズ博士さんを含む熱心な原告支持者が駆けつけ、裁判所の外での集会と地元のラジオ放送局が取材しました。（沖縄 吉川秀樹）



11月28日、環境省に署名11,355筆（累計87,716筆）を提出しました



辺野古に座り込んで、歴史的瞬間を支えたもの

辺野古キャンプシュワブゲート前座り込みテントにはためく「あかみね政賢」「テルヤ寛徳」「デーニ玉城」そして「ナカサト利信」ののぼり。まさに、稲嶺進名護市長の再選を実現し、オナガ雄志を知事選挙で圧勝させたオール沖縄の枠組みが、辺野古新基地建設阻止の大衆的たたかいでつくり、衆院選も辺野古新基地建設を争点に闘われたことを象徴するものだ。

昨年7月の工事着工の強行に反対し6月下旬より取り組まれた辺野古ゲート前行動。灼熱の太陽の下、監視と資材等の搬入阻止に備えてわずか1、2枚の日よけのブルーシートで始めた座り込み行動。機動隊や海保による暴力的な弾圧に抗して続けたゲート前と海上での行動は、「居ても立ってもいられなかった」「とにかく辺野古に行こうと思った」との県民の支持と共感を生み出し、何度かブルーシートなどテント設営資材を買い足しに走った。日に日に寄せられる支援の輪の広がりが見えるようになった。

そういう流れの中で持たれた8月23日、9月20日の辺野古での県民大集会と島ぐるみ会議による辺野古行チャーターバスは「1人ではなかなか行きにくい」「辺野古に行ったことがないから行ってみたい」という県民のハードルを下げ、親子連れ

の参加や若者たちの体験参加は、「一部の過激派・・・」や仲井真が言う「いい大人が・・・」の攻撃をみごとに吹き飛ばした。また、政府の「普天間移設問題は過去のこと」という争点隠しを、現地のたたかいは余すところなく暴いた。

さらに、座り込み参加者が党派の垣根を乗り越え選挙戦を担い、辺野古現地行動団として4選挙区に乗り込み街頭アピールを展開し、まさに現地のたたかいと選挙戦ががっちりスクラムを組んで見事に全選挙区での勝利を勝ち取った。4人の衆議院議員がそろって当選直後ゲート前テントに肩を並べて座り新基地阻止への決意を確認し合うという歴史的事実は、現場でのたたかひの大きさをあらためて証明するものだった。（沖縄 高垣喜三）



“殺人鉄板”の上での座り込み

「辺野古のたたかひにこだわって」

オナガ知事が誕生し、沖縄の民意が示されたにも関わらず、基地はつくりようとしています。今、現地で関わらなければ一生後悔するとの思いで、12月、1月と辺野古ゲート前座り込み・カヌーチームで海上阻止行動に参加してきました。毎日書いていた私の1日の動きの一部を紹介します。

1月0日。ゲート前に午前中行きました。工場車両が午前8時以前に入ったそうです。車両を出さないために、殺人鉄板の上にみんなで座り込みました。が、私も含め数名が機動隊に手足を持って担がれ端に寄せられ、車両は出て行きました。文子おばあが「警察の汚れた心をこの殺人鉄板の洗濯板でゴシゴシ洗ってやるから出てきなさい、海を埋め立てたら元にはもどらない」など話しておられました。ゲート前で歌ったり、励まし合いながら午前中は終わりました。沖縄中部の嘉手納爆音訴訟の栄野比(えのび)・うるま市支部からの鶏汁でお昼はお腹を満たしました。栄野比公民館のバ

スを、この為に借りられるということは珍しいようで、そういう小さなことから沖縄は良い方向に変わってきているとの話をききました。

1月△日。カヌーチームの練習に参加しました。朝9時から夕方4時までの長時間練習でした。いつもは2時には終わっていましたが、15日に工事ははじまるとの報道があったために長時間実践的な練習をしました。冬の海なので波が高く、転覆する人もいましたが、みんな練習をつんでいるのですぐにカヌーに上がることができていました。今、21時51分。1時間前からゲート前にきています。30人ほど集まり歌を歌って寒さをしのいでいます。うるま市の男性から「小さな力が集まると、これだけの力になる。君のような若者が沢山全国からきてくれている。ありがとう」と言われました。明日(15日)浮き桟橋が出るとの琉球朝日の報道で、ゲート前は今緊迫しています。（関西 沖野広美）



辺野古NOW



海上では、仮栈橋設置を止めようと、寒さの中カヌー隊が抗議行動を続けています。海上保安庁のゴムボートに拘束されることが増えています。(写真提供：京都行動 松本修さん)



稲嶺名護市長も座り込みに参加



シュフブ前テントに並んだ4人の衆議院議員

12・6秘密保護法廃止！ロックアクションに参加して

毎月6日に続けられているロックアクション。12月10日の施行前の集会&デモにSDCCも参加して2分間アピール、バナーを掲げ梅田の街を歩きました！27日特定秘密の指定が開始されたとの報道に、いったい何を秘密にしたいのだろう？秘密の根拠は？正当性は？不安が募ります。より厳しくなる情勢の中、声を挙げ続け、行動していかなければと実感しています。今でも情報は隠されています。辺野古アセスでもオスプレイ配備は後出し、住民は意見を言えませんでした。防衛省、環境省などと交渉しても「ジュゴンの保護は？」「環境の保全は？」様々な質問に納得のいく答えは返ってきません。市民に情報が知らされず事が進んでいくのでは民主主義が機能しているとは言えません。暗澹たる気持ちになりますが、キャンプシュフブゲート前で機動隊ともみ合いになり、救急車で運ばれたおばあの「沖縄戦を生き延びてきた私にとって、これくらいの弾圧はどうということはない、

皆さんにもっともっと力をもらって闘い抜く」という言葉に勇気をもらい、みんなで闘い抜きたいです。ものを言うのがためられる息苦しい世の中は嫌です。自由に表現し、楽しく元気に意思表示するそんな場を創り続けたい！日常の暮らしを守るために「秘密保護法廃止」を求めていきましょう。(関西 池側恵美子)



大阪市北区の扇町公園にて

沖縄とつながる交流パーティー☆大ゆんたく☆に参加しました

昨年夏、辺野古で強行調査がはじまろうとしていた頃、京都では恒常的・長期的な運動を創り出そうと「NO BASE 沖縄とつながる京都の会」が発足しました。SDCCは7月のスタート集会に参加、その後、大阪・京都で「満月まつり」を同日開催するなど、京都との交流を深め、12月24日の大ゆんたくには、協賛団体として参加してきました。

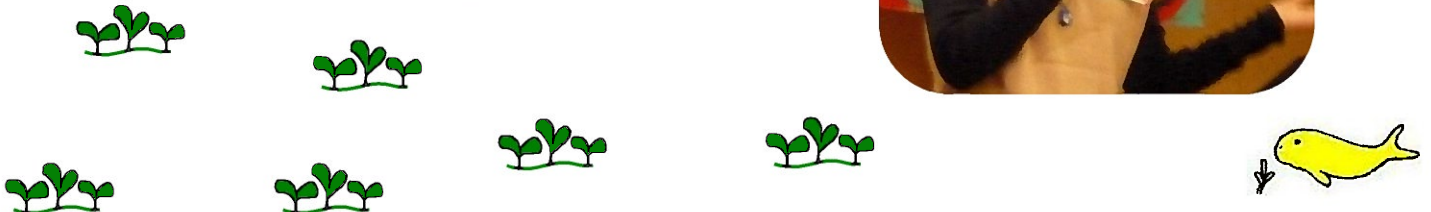
パーティは世話人の大湾宗則さんの「今年（2014年）の選挙は全勝でした！」からはじまり、京都県人会会長さんのご挨拶、辺野古現地から山城博治さんのビデオメッセージと盛り上がっていきました。ステージは、島唄・三線演奏のほか、様々なジャンルのグループが登場。最後は「沖縄を（に）返せ！」の大合唱となりました。

テーブルスピーチでは、京都の市民団体にまじってSDCCからもアピール。広く楽しく辺野古の事を伝えるアクションとして、ジュゴンでトレイン！を紹介。次回は京都の皆さんも取り組んでくださるとのことです。また終了後、何人もの方からジュゴン帽の注文があり、フェイスブックでのお友達も増えました。年末のイベントでしたが、沖縄ともっと深くつながろう、関西でのつながりを広げていこうと、前向きに一年を締めくくりました。

(関西 山根富貴子)



SDCC 作成のジュゴン帽子をかぶって熱唱するおもちゃ楽団の川口真由美さん。



① わんさか通信 ★ ジュゴンの ②

はじめまして！新たにスタートした連載コーナー♪

沖縄のこと名護のこと、ジュゴンをご縁に繋がった人やお店、大浦湾にある「わんさかパーク」や現地辺野古情報などなど発信していきます～す！

1回目はジュゴン1丁目1番地と言えばこのお方。東恩納琢磨さんに新年のご挨拶へ。

というのも琢磨さんをご縁に、わんさか大浦パークでジュゴングッズを販売して頂けることになりました！！

やんばるの森へ続くドライブのひと休みポイント大浦湾

を眺めながら地元の味を堪能して手作りのお土産品などいかがでしょうか？！

今回置いて頂けるグッズはSDCCの人気No.1 ジュゴンマスコット¥200-とジュゴン箸置き2個セット¥600-

皆さんのオススメ情報や発信したい熱い思い!!などありましたらどなたでも是非このコーナーへ投稿して下さい。(沖縄 小平)



フィリピンレポート ～前編～

ジュゴンスタデイツアー(12/1-9)に参加して

12月1日～12月9日、念願のジュゴンスタデイツアー(主催:海の生き物を守る会)に参加してきました。ジュゴンが生息する地域で、その生態に触れ保護に携わる人々に出会うことができ、とても有意義なツアーでした。

2日にダバオ空港に降り立ち手荷物を待っていると、私の名前を書いたボードを空港職員が持って待っていました!「何?・・・お出迎え!・・・」実は着替えの入っている私のデイベックが届かなかったようで、「後日滞在先に送り届ける」とのことでした。出鼻をくじかれた感がありましたが、気を取り直し陸路最初の調査地であるマティに一行は向かいました。マティでは、これまでも調査に協力いただいた、東ダバオ州立資源科学大学(DOSCST)を訪問しました。

3日からはいよいよ調査が始まりました。プハダ湾の海草調査です。これまでも継続的に調査をしてきた海域で、ジュゴンが海草を食べた跡～食跡をボートにつかまり「マント方式」で観察しました。無数の食跡を目撃でき感動しましたが、新しい食跡はないとのこと、ジュゴンはどこで海草を食べているのだろうか?という疑問が残りました。プハダ湾は手つかずの自然が多く残り、ジュゴンが生息する海域を守っているんだなあと感じました。

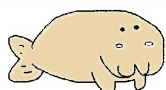
宿泊していたコテージのあるマヨ湾では、幸運にもジュゴンに出会うことができました。朝夕にジュゴンが必ず現れるとのこと、毎朝ビーチからジュゴンを探しました。そしてついに、3日朝ビーチからジュゴンが息継ぎに浮上した姿を一瞬目撃することができました。他の参加者は、二人乗りの小型グライダーをチャーターし上空からジュゴンを撮影することに成功しました。最近マヨ湾での目撃例が多いので、プハダ湾ではなくマヨ湾で海草を食べているのでは?との情報もありジュゴンの行動が気になります。(首都圏 三村昭彦)



じゅごんの里の東恩納さんと



わんさか大浦パークにならぶじゅごんグッズ



ニューフェイス紹介

山好きだったせいか、沖縄はずっと遠いところでした。ところが一昨年5月、初めて沖縄を旅してハマってしまいました。南国の自然とグスクなどに魅せられる一方、戦争を引きずる戦跡や基地。不条理に対する県民の根を張った抵抗に感銘を受けました。県民でなくても、辺野古の美しい海を多くの生命を殺して埋め立てることは傲慢で許せません。

それ以降、首都圏で開かれる反基地集会等に参加しいろいろな訴えを聞いて、新基地建設が遠い島の出来事ではなくなりました。

海と平和を壊す 新基地建設は許せない!

SDCCを知ったのは昨年、辺野古のテントの中にあった埋立反対の署名用紙です。多くの人に知ってもらいたくて組合や知人を回って署名を集め、現地とも繋がりたいと思い立って6月から会員になりました。秋からはミーティングに参加しています。11月の政府交渉はただ席に座っているだけでしたが、いい勉強になりました。

今政府は表現の自由等国民の権利をはく奪し、戦争への国づくりを強制的かつ急速に進めています。

辺野古の海を守ることが平和を守ること! だからメゲずに頑張っていきたいと思います。

みなさん、よろしくお願いします。(首都圏 蟹江由美子)

首都圏



「フィリピン・ジュゴンスタディツアー報告会」

日時: 2月6日(金) 18時半開場 19時開会
場所: きゅりあん6階中会議室
(JR大井町駅徒歩1分)

参加費: 800円

内容: ミンダナオ島でのジュゴン調査報告ほか
報告者: 向井 宏 (海の生き物を守る会 代表)
三村昭彦 (SDCC スタッフ)



事前申し込み不要です、お問い合わせは下記事務所まで。ご参加お待ちしております。

追悼 カンジャナ・アドゥンヤヌコリンさん

タイ・ブーケット海洋生物センターで長年にわたってジュゴンの保護・研究に取り組んでこられたカンジャナさんが、1月10日、ガンのため亡くなられました。カンジャナさんは、「ジュゴンのママ」と呼ばれたほどのジュゴン好きで、世界のジュゴン保護をリードしてこられた研究者です。



とても気さくで明るい方で、最後まで笑顔を絶やさず闘病される姿には勇気づけられました。SDCCの招請で東京、大阪、沖縄の集会で講演してくださったり、ジュゴンでトレイン! に写真を送ってくださるなど、大変お世話になりました。心からご冥福をお祈りします。

関西・山根富貴子

2009年大阪の講演会で



座り込みの応援!?

ジュゴン現る!



1月16日、名護市辺野古から8キロほど離れた沖合で、ジュゴンが泳いでいるのをRBC(琉球放送)のカメラマンが上空から撮影しました

《 今後のスケジュール 》

第15回 SDCC 総会を開催します

4月17日(金) 午後6時~8時 会場未定

【関西】

- ◆2/6(金) 秘密保護法廃止! ロックアクション
- ◆2/11(水・休) 海の生き物を守るフォーラム 2015 @クレオ大阪東 2F 音楽室 13:00~17:20
- ◆2/26(木) じゅごん茶話会 @関西事務所 14時~16時

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.78 2015年1月27日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区土土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぶるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!